

第3回 ICEBA 2014 生物の多様性を育む 農業国際会議 2014

International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture 2014

12月5日(金)
6日(土)・7日(日)
大崎市民会館
参加費無料・要申し込み

◆参加申し込み受付中！多くの皆さんの参加をお待ちしています

生物の多様性を育む農業国際会議は、自然と共生する農業技術と地域づくりについて考える国際会議です。わたしたちの暮らしと生物多様性の関わりや、生きものと共生する農業技術、生きもの調査の仕方について、日本、韓国、中国のさまざまな取り組み事例を交えて一緒に考えていきます。多くの市民皆さんの参加をお待ちしています。

定員：下記日程を参照
参加費：無料 ※ただし、6日の昼食(500円)、交流会(5,000円)を希望する場合、別途必要となります。
申込先：みやぎ大崎観光公社 (みちのく古川食の蔵 醸室内)
☎ 25-9620 **FAX** 25-8635
★申込専用サイト <http://mo-kankoukousya.jp/hp/iceba2014/>
申込期限：11月20日(木)まで(定員になりしだい締め切り)
問 第3回「生物の多様性を育む農業国際会議 2014」
実行委員会事務局(産業政策課自然共生推進係)
☎ 23-2281 **Eメール** iceba2014@city.osaki.miyagi.jp

5日(金) エクスカーション(体験型見学会) 定員：各コース40人 集合：大崎市民会館

13:00～17:00(12:00から受け付け)

Aコース 大崎市民会館→古川農業試験場→侑氏家農場→ふゆみずたんぼ→蕪栗沼のマガンのねぐら入り観察
Bコース 大崎市民会館→(株)ノ蔵→古川農業試験場→化女沼のマガンのねぐら入り観察
Cコース 大崎市民会館→エネカフェ・メタン→バイオディーゼル製造施設→化女沼のマガンのねぐら入り観察

6日(土) 開会セレモニー/基調講演/パネル討論 会場：大崎市民会館



講演ゲスト

大桃 美代子さん
地球いきもの応援団
タレント

9:00 受付・オリエンテーション
9:30 開会セレモニー
10:20 基調講演1 講師…大桃 美代子さん(地球いきもの応援団・タレント)
11:00 基調講演2 講師…夏原 由博さん(名古屋大学大学院環境学研究科教授)
11:30 基調講演3 講師…田中 幸一さん(独立行政法人農業環境技術研究所上席研究員)
13:00～17:30 パネル討論
セッション1「生物の多様性を育む農業技術の実践」
座長…稲葉 光國さん(NPO法人民間稲作研究所理事長)
セッション2「生きもの調査と生物の多様性を育む農業技術の評価をめぐる」
座長…城所 隆さん(元宮城県古川農業試験場長・農学博士)
セッション3「生物の多様性を育む農業・農村を支える地域づくり」
座長…呉地 正行さん(NPO法人蕪栗ぬまっくらぶ理事長)
18:30～20:30 交流会 会場：芙蓉閣 定員：200人 参加費：5,000円
※UNDB-J 生物多様性地域セミナー in 大崎も同時開催されます

7日(日) 総合討論/閉会セレモニー 定員：800人 会場：大崎市民会館

9:30 総合討論 進行…あん・まくどなるどさん(上智大学大学院地球環境学研究科教授)
11:30 閉会セレモニー

平成24年度 大崎市財務書類 (普通会計)の概要

① 貸借対照表

保有する資産と負担区分に関する情報

資産(現在保有する財産など)

合計	2,117 億円(156 万円)
内訳	
公共資産	1,783 億円(132 万円)
投資等	193 億円(14 万円)
流動資産	141 億円(10 万円)
※流動資産うち歳計現金残高 36 億円	

負債(これから負担するもの)

合計	744 億円(55 万円)
内訳	
固定負債	672 億円(50 万円)
流動負債	72 億円(5 万円)

純資産(これまで負担したもの)

合計	1,373 億円(101 万円)
----	------------------

② 行政コスト計算書

資産形成を伴わない行政サービス経費の情報

経常行政コスト(行政サービスの費用)

合計	473 億円(35 万円)
内訳	
福祉	176 億円(13 万円)
教育	65 億円(5 万円)
環境衛生	59 億円(4 万円)
生活インフラ	54 億円(4 万円)
上記の他	119 億円(9 万円)

経常収益(行政サービスへの対価)

合計	13 億円(1.0 万円)
内訳	
使用料・手数料	8 億円(0.6 万円)
分担金等	5 億円(0.4 万円)

純経常行政コスト(純資産で対応する費用)

合計	460 億円(34 万円)
----	---------------

③ 純資産変動計算書

これまでに負担したものに関する情報

期首残高	1,314 億円(97 万円)
減少額合計	507 億円(37 万円)
内訳	
純経常行政コスト	460 億円(34 万円)
災害復旧費など	47 億円(3 万円)
増加額合計	566 億円(41 万円)
内訳	
一般財源収入	405 億円(30 万円)
補助金等収入	161 億円(11 万円)
期末残高	1,373 億円(101 万円)

④ 資金収支計算書

1年間の現金収支の情報

期首残高	38 億円(2.8 万円)
収入	642 億円(47.3 万円)
支出	644 億円(47.5 万円)
差引残高	-2 億円(-0.2 万円)
期末残高	36 億円(2.6 万円)

基礎的財政収支は50億円の黒字(A-B)

収入総額 642 億円-地方債発行額 51 億円=591 億円(A)
支出総額 644 億円-地方債償還金 75 億円
-基金積立 28 億円=541 億円(B)

●貸借対照表の基準日は平成25年3月31日、その他の表は平成24年4月1日～平成25年3月31日で作成 ●各表の()内の数値は市民一人当たり額(平成25年3月31日現在の大崎市住民基本台帳の人口により算出) ●表示単位で端数調整を行っているため、総額が一致しない部分があります。

市では、「現金主義・単式簿記に基づき、歳入・歳出の収支決算により会計処理を行っています。」
しかし、より効率的な行政運営を行うっていくため、これまでの会計処理に加え、民間企業などで行われている資産・負債などの情報やコストを意識し、「発生主義・複式簿記」の考え方を取り入れた「地方公会計制度」に基づく財務書類を作成し、会計状況を明らかにしています。

国から示された「総務省方式改訂モデル」に沿って、地方財政状況調査「決算統計」を活用した「平成24年度決算に係る財務書類」を作成し、市の「資産」や「負債」などの情報を明らかにする財務書類として、左の4つの表を公表します。
これらの表は、それぞれに関連して構成されています。より詳細な内容は、市ウェブサイトに掲載しています。

① 貸借対照表
資産は、約2117億円、負債が約744億円、純資産は約1373億円となっています。一般の住宅資産に例えると、マイホームなどの価格が2117万円で、住宅ローン残高が744万円、差し引き1373万円の返済が終わっていることとなります。

② 行政コスト計算書
1年間に行政サービスにかけた費用(資産形成を除く)と、それに対する利益収入を示したもので、差額約460億円は、③純資産変動計算書の期首残高から差し引かれることとなります。

③ 純資産変動計算書
1年間で純資産がどのように変化したかを示したもので、前年度から約59億円の増となっています。
④ 資金収支計算書
1年間の現金の流れを示しています。収入から支出を差し引いて不足する約2億円を期首歳計現金残高から差し引いた36億円は、①貸借対照表の資産に含まれます。
また、収入と支出の総額から借入金や借入金返済などに関するものを除いて算出する基礎的財政収支は、財政の持続性や健全性を測る指標であり、平成24年度は約50億円の黒字となっています。

地方公会計制度に基づく「平成24年度決算状況」を公表します